

## 第2回 夜間中学等に関する協議会ワーキンググループ 議事録

日 時 令和4年11月15日(火) 14時00分～15時00分  
場 所 北海道庁別館7階 教育委員会室

### 1 開会

#### 【事務局：上野課長補佐】

定刻になりましたので、ただ今から、「第2回夜間中学等に関する協議会ワーキンググループ」をはじめさせていただきます。進行を務めます。義務教育課の上野です。よろしくお願いいたします。本日は、集合とZoomの併用で開催させていただいております。

では次に、構成員について、前回から変更や、新たになられた方をご紹介します。変更のありました構成員が、札幌市教育委員会教育推進課長石田建志様。北海道高等学校長協会から、北海道石狩南高等学校校長原田稔朗様。新たに構成員になられた、札幌遠友塾自主夜間中学代表黒澤晴一様。

次に、本日の出欠について、確認させていただきます。欠席者は、北海道PTA連合会の舛田副会長様です。

次に、資料を確認いたします。まず、次第とレジュメ3枚です。

次に、資料1「札幌市立星友館中学校の現状等について」4枚の資料になっております。資料2は、「オンライン授業体験について」1枚ものです。資料3は、表紙と3-1から3-3までの4枚の資料となっております。その他、協議会の開催要領、ワーキングの設置要綱、名簿。星友館中学校のパンフレット、ご用意いただきましたのでお配りさせていただいております。

次に、次第をご覧ください。この後、議事に入り、「札幌市立星友館中学校の現状等について」、星友館中学校工藤校長様から情報提供をいただきます。

次に、昨日実施しました「オンライン授業」の試行実施について、事務局から概要を説明した後、札幌遠友塾の黒澤代表から感想等を発表いただきます。

最後に、「協議」で、「本道の広域性を踏まえた夜間中学の設置の在り方も含めた教育機会の確保」について、事務局から説明を行った上で、みなさまにご協議いただきます。

本日の協議の終了時刻は、15時30分までとなっております。ご協力をお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきますが、議事進行は、義務教育課長の新居が行います。

### 2 情報提供 札幌市立星友館中学校の現状等について

#### 【新居構成員】

義務教育課の新居でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、ご多用中ご出席いただきまして、ありがとうございます。皆様ご承知のとおり、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育機会の確保等に関する法律」第14条、第15条の規定に鑑みまして、学齢期を経過した方のうち、就学の機会が提供されなかった方で、その機会の提供を希望する方などに対しまして、夜間や、その他特別な時間に授業を行う学校における就学の機会の提供その他の必要な措置を講ずることを目標にするということで、夜間中学校に関する協議会を、道教委として、皆様のご協力のもと進めてきたところでございます。

また本日は、ワーキンググループとして、より実働的なことについてお話を聞いて、情報の共有を進めていきたいと思っております。北海道はもう皆様ご承知のとおり、今年4月には、星友館中学校が開校し、5月には北見市の民間の夜間中学校が開かれるなど、多くの動きが出てきているところでございます。

様々な取組を皆様と共有しながら、広域な北海道における夜間中学校の設置のあり方なども含め、多様な教育機会の確保について、どのように取り組みを進めていったら良いのか、皆様から忌憚のないご意見を聞きながら、進めていきたいと思っておりますので、今日は貴重なご意見をいただければ

と思っております。よろしくお願いいたします。

では、早速ではございますが、公立夜間中学校で4月から開校されております、札幌市立星友館中学校について、工藤校長先生からご説明いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 【札幌市立星友館中学校 工藤オブザーバー】

札幌市立星友館中学校校長の工藤と申します。私の方から現状についてご説明したいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。なお時間が限られておりますので、詳細につきましては、お手元の資料とパンフレットの方ご覧いただければと思っております。それでは、座ってご説明いたします。

まず、4月に本校は開校いたしまして、生徒数が開校のときは66名でスタートいたしました。また、前期の間は途中入学が可能になっておりまして、入学される方、または体調不良等で残念ながら、一旦学校をお辞めになる方などがおりまして、10月現在で91名の生徒が在籍ということになっております。定員120名ということでございますけれども、現状はそういう状況でございます。

また、年代でございますが、10歳代から80歳代まで在籍しております。現役の中学生は入れない学校となっておりますので、10歳代といいましても、実際は中学校卒業後からの10代ということで15名ということです。この辺りは、かなり割合としては高いのかなというふうに思っております。

また、70歳代、80歳代の方というのは、いわゆる戦後の混乱期で、十分に学べなかった方というニーズになっております。

また、(3)の居住地でございますけれども、本校は札幌市内及び近郊の、覚書で協定を結んだ市町村の住民の方を受け入れております。

また、外国籍、外国ルーツの方9名ということで、例えば東京ですとか大阪方面など全国の夜間中学ですと、この辺りの割合が7割とか、場合によっては8割というような形で現状なっていると聞いております。本校につきましては、ここの割合は低いということでございます。

また、中学校を卒業していない方は7名ということで、ほとんどの方は、一旦は、中学校を卒業して、卒業証書をもらいながらも十分学べなかったという、いわゆる形式的卒業ということで本校でまた学んでいるということでございます。学校の運営方針は、ご覧いただければと思います。

2ページ目をご覧ください。教育課程と教育活動でございます。まず、(1)の教科指導でございますが、本校は学年所属にかかわらず、生徒さんお一人お一人の学びの状況に合わせて、6つのコースを設定しておりまして、入学時にどのコースで学びたいかというのは、ご意向を生徒さんの希望を相談でお聞きして、コースに所属してもらって、そのコースのカリキュラム授業を受けていただく。そのような仕組みになっております。

①番の日本語コースは、外国籍・外国ルーツの方の中で、日本語の読み書きをもっと学びたいという方がいらっしゃいますので、その方々が日本語指導の授業も行われているこの日本語コースで学んでおります。

あと、スタートコースからチャレンジコースまでは、習熟度と申しますか、学習の段階別にコース設定をしております。

また、夏休みと冬休みに、夏期講習・冬期講習というものを、参加希望がある方だけですけれども、設定をして講習といいながらマンツーマンの学習支援を行っております。

それと(2)道徳・学活・総合ということで、週2コマやっております。道徳もそんなたくさんではないですが、やっております。

(3)学校行事でございますが、昼間の学校でも行われる儀式的行事のほか、文化的行事としては、文化学習発表会、芸術鑑賞ということで、特に文化学習発表会など、生徒さんが、自分の学んだことを表現し、またそれを生徒さん同士で見合って、自信をつけていくと、そんな教育活動を大事にしておりますので、生徒さんの個性を發揮できる場をなるべく保証したいというような形で行事を設定しております。

また、健康安全・体育的行事、スポーツ教室など交流会なども行っておりますし、防災教室では、

AEDの使い方など、実際に消防署員の方に来ていただいてやっております。

また、旅行集団宿泊の行事では、泊を伴うような行事はございませんが、校外学習を年2回行うなど、いろんな体験をしていただきたいということであります。あとはボランティア制度などもやっております。

それから、教育相談の充実ということで、学びの面で、要するに中学校の時に、十分に学ぶことができなかった方が多いものですから、学びの面での不安をなるべく早く解消するというので、教育相談に力を入れて、年5回計画的に教育相談を行うほか、スクールカウンセラーも札幌市立の中学校と同じ、年間280時間配置しまして。そうしますと週2回、生徒がいる時間に来てもらえますので、こういう形の対応をしております。結構カウンセリングを希望する生徒さんも多くて、充実した形になっていると思っております。

それと、(5)番、先ほどお話した生徒さんの発表の場と連動するのですが、実は本校は、札幌市立の昼間の中学校と同じように、札幌市中学校文化連盟、通称中文連と言っていますが、これに参加しております。その中文連のいくつかの取り組みの中で美術・書道展っていうものがある。これは全市、各学校から選ばれた美術作品や書道作品を、札幌市民ギャラリーに、秋に展示して市民の方々に見ていただくという、そんな取り組みがあるのですが、本校からも、美術作品それから書道作品、全員ではないんですが、希望する生徒さんでなお且つその中でも特に優秀な作品のものを出品しております。

また、文芸集「にれ」という、札幌の中学校でずっとやってるのですが、これにも出品予定ということで、生徒さんが張り切って取り組んでおられるというところでございます。

続きまして3ページ目でございます。教職員スタッフでございますが、正規職員14名、それから、非常勤職員、道教委様の方からも時間講師を派遣いただきながら充実した形で進めております。

また国の方からも、教員職10名とありますが本来は実は7名のところ、加配教員3名もいただいております。それによって、ほとんどの授業で教員を複数配置し、チームティーチングの形で授業ができているということでございます。

なかなか学びに困りのある方多いものですから、よりきめ細かな、学習支援をするためにはどうしてもマンパワーが必要ということで考えております。そういった意味で申しますと(3)のボランティアさん、学習サポーターと呼んで大丈夫けれども、かなりご活躍いただいております。特に学びに困ってらっしゃる方の横についていただいて、教師の説明がわかってるかどうか確認したりですとか、よくご理解いただけていない場合は、補足の説明をしたりだとか、そんな形でやっていただいて、大変ありがたく思っております。

それとコマ数は少ないんですが、ALTも来て本場の英語を聞く授業をやっております。校務補助員も、11月から入ってます。

また給食ですけれども、学校給食の形ではないのですが仕出し弁当の形でやっております。公費も、250円分負担をし、自己負担300円におさえる形でやっております。今年はコープさっぽろさんが落札し納品していただいております。

お弁当は大変おいしくいただいておりますけれども、あたたかいお弁当ということではないので、11月からはコープさっぽろさんにご尽力いただきまして、夏の間は冷たいお茶がついていたんですが、これに代えて、冬は暖かい味噌汁を提供するなど、生徒さんの声も聞き、いろいろ工夫しながらやってるところでございます。

また、7番ですが、就学支援制度ということで、経済的に厳しいので本校に通えないという方がいないようにということで、小中学校で言うところの就学援助制度の類似制度も整えている形でやっております。

また、生活保護を受給されてる方は、教育扶助の対象となるようなことも進めているところでございます。

続きまして8番、関係機関との連携でございます。これは基本計画の中でも示された札幌市若者支

援総合センター、それから、4ページ目に参りまして札幌国際プラザ、それから、札幌遠友塾自主夜間中学、そして、市立札幌大通高等学校という機関と、連携というか、本校にお力添えご協力をいただいている、常日頃からお世話になっている団体様でございます。

特に遠友塾さんのほうからは生徒さん、遠友塾の卒業生も含め16名ぐらい来ておりますし、スタッフの方も何名か来ていただいております。

また、これらの機関の代表の方に、本校の学校評議委員になっていただいて、開校後もいろいろなお意見をいただいて、改善しながら学校運営を進めているというところでございます。

最後になりますが、他市町村で住民の受け入れということで、最初の方でも申しましたけれども、現在6市から生徒さんが通っておられます。JRで通う方が殆どになっているので、昨日のようにJRが混乱すると、遅刻とか早めに帰るとかってことは生じますけれども、元気に通っていただいているところでございます。

私の方からご説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

#### 【新居構成員】

今お聞きしても、教育相談を年5回実施するなど、生徒の皆さんに寄り添った、少しでも尊重するための取組や、個性を發揮できるような工夫とか、そのために自信を持てるような行事も考えられているとのことでしたが、今のお話を聞いて、もう少し聞いてみたいとか、こんな取組はありますかなど思ったことありましたら挙手ご発言をお願いします。

それでは、木村先生お願いします。

#### 【木村（純）構成員】

2つお聞きしたいことがあるんですけども。1つは、仕事を持って通っている方は、いったいどれぐらいいらっしゃるって、例えば、なかなか毎日通うのは大変だっというような人が、そういう中にいらっしゃるのかどうかというの、1つです。

もう1つは就学援助制度なんですけども、札幌以外は連携してるところと苫小牧という2つあって、就学援助制度っていうのは、自治体によって基準が異なっていたりするんですけど、そういう問題はどういうふうにされているのか、その2つを、教えてください。

#### 【札幌市立星友館中学校 工藤オブザーバー】

ご質問ありがとうございます。まず1点目の仕事をお持ちの生徒さんなんですけど、数まで把握はしていないのと、就労したり、また途中で一旦辞めて、就職したりとかっていう方もいらっしゃるの、数字が動くのですが、一定程度、お仕事からまっすぐ、学校の方に来られる方は、何割かおります。

ただ、本校の場合ですが、全国の夜間中学さんの中には5時半なら5時半から通えることを条件に入学をお認めしているところもあると聞いてはおりますが、本校の場合はその辺りは、あんまりきちきちとした形ではなく、中には2時間目から来られる方もいますし、それも大丈夫ということで、本校は中学校なので基本3年であるものの、原則6年、何か事情があればまた7年目8年目も可能にする形で、じっくり学びたい方が長く在籍することも可能となっておりますので、そういう年数の中で、生徒さんが時間をかけながら、十分に学べたというふうな思いになっていただけたらいいのかなと、そんなコンセプトでやっております。

それから、2点目でございますけれども、実は就学支援制度の適用条件につきましては、札幌市の方で決めさせていただいた条件を、連携する市町村さんの方にもご理解いただいてやっておりますし、札幌以外の市町村さんでその対象の方いましたら、そこに係る費用もその市町村さんにご負担いただくという形となっており、そのような形での覚書、また協定になってございます。

#### 【木村（純）構成員】

基準は一緒にするけれども、負担はそれぞれの市町村でと。わかりました。どうもありがとうございます。

#### 【工藤構成員】

質問ではないんですが。札幌遠友塾から卒業生含めて16名の方が入学しましたけれども、はっきりしていることは、遠友塾にいたときより生徒さん皆、遥かに元気になったと。これは驚くぐらい、明るく元気になってるってこと、これは、皆感じていることです。非常にありがたいなと思っております。そして、彼らを通じて、今まで遠友塾とは無縁であったけれど、札幌遠友塾の在校生とも仲良くなる星友館の生徒さんも出てきてるといふ関係になったんです。そういうことが一つ。

二つ目は、実は全国で今、順次、公立夜間中学の設置が進んでいますが、どうも他の県、県立並びに市立の公立夜間中学の計画を見ると、星友館ほどきちつとなっていないのが殆どなんです。中には、エレベーターもなければ多目的トイレもないとか、それから、設置市の市民以外は駄目とか、それから、入学は4月と10月のみとか、あとは無いとか、就学支援制度も全くないところとかですね。弁当給食もないとかっていうのを最初から打ち出しているところもありますし、昨日、宮崎市の夜間中学の設置の計画案を手に入れたんですけど、やはりそこでもちょっと、欠けている。

同じ単独校で、市立でいくつというのではあるんですが、やはり星友館を基準にして考えると、全国の公立夜間中学が、何か歯が欠けてるみたいに、駄目な部分があるので、今私たちはむしろ、札幌市立星友館中学校並みに、全国の公立夜間中学を質的に高めたいという希望を持ってしまして、そのためにはどうしても、予算がかかる。例えばエレベーターの設置とか、そういうものは予算がかかりますので、今後、基礎教育保障学会を通じて、文科省並びに、国会議員との折衝に入るつもりであります。

#### 【新居構成員】

受け入れを広くしていたりとか、近隣の市町村等の連携もやられてる、札幌市立の高校ともやってきた夜間中学ということなんですけども。今日、札幌市教育委員会の石田課長さん見えられてるので、遠友塾さんと星友館の繋がりであったり、近隣の市町村との関係とか、一番ご苦労されてるのは、市教委さんじゃないかなと思うんですけども、どのような、ご苦労だったり配慮とか、お話ししましたらお願いします。

#### 【石田構成員】

札幌市の教育推進課石田でございます。私は、今年4月から配属になりまして、実際の経験ではないのですけれども、前任者から聞いたり、もしくは担当の方からいろいろ話を聞いたというところがあります。

まず、遠友塾さんとの繋がりでございます。夜間中学というのは、法的には中学校ではあるのですけれども、本市そして市立としてやるには、まず、知見というのがなかったというのが、正直なところでございます。そういう状況もございましたものですから、夜間中学について一番詳しい一番知っている方にいろいろと教えてもらって、それを踏まえて作るという事がやっぱり一番大事だろうということを考えまして、それがまさに遠友塾さんの皆さんだったというふうに思います。

当然、行政でありますので、予算というのがあるものでございます。すべて理想の夜間中学が実現するとは、限らないのではございますけれども、そのあたり、実際にやられてる方と気持ちはずれてると、今、工藤構成員からもお話がありましたように、実際に欲しいものと、出来上がったものがずれてるといふのは、それはよくない。こちら作るものとしては、できれば、予算を取って、良いもの作りたいたいと思ってるんですけども、それが実際にマッチしていないとなると、それはお互いにとっても決して、幸せな話ではないということでもございましたので、我々もですね、正直なところ、また、遠友塾さんからもですね、正直なところをお話いただくという、非常に本音の話し合いを繰り返し繰り返し広げて、こんなことができたのではないかと、いうふうに思っております。それで、こういう公立夜間中学を作りたいという思いももちろんございますけれども、例えば、視察先などに情報もいただいたりですとか、アンケートの作成とか配布についてもいろいろとご尽力いただいたというところがございます。

また、実際に今、夜間中学に通われてる方、当時の遠友塾に通われている方のみならず、いわゆる卒業された方にも大変ご協力いただいたということもありますし、こちらの方で作っております、あ

り方検討委員会というのは、立ち上げの時に作ったのですけれども、そこにも、ご参加いただきまして、様々なご意見をいただいたところでございます。

先ほど最初に工藤校長の方から話がございましたけれども、開校後も星友館中学校と連携しているという意見交換をしながら行っております。我々としては、「正に先輩」ということでございますので、非常に頼りになる存在というふうに考えているところでございます。

他市町村との連携ということでございます。こちらの夜間中学の検討というのは元々、道教委さんの検討協議会というのがスタートであったということでございますものですから、道教委さんの協力を前提として、他市町村の住民の受け入れをさせていただいたところでございます。分担といたしましても、先ほど、就学支援の話もございました。在籍者の市町村には学校運営について応分の負担をいただいているということと、あとは、各市町村で、周知をしていただいております。

また、道教委さんからは時間講師を派遣していただいているところでございます。

また、生徒の在籍状況について適宜札幌市の方から、連携の市町村の教育委員会に情報提供させていただいているところでございます。以上でございます。

#### 【新居構成員】

ありがとうございます。本日はZoomではありますけれども、旭川市さん、釧路市さん、北見市さん、函館市さんからもご出席いただいておりますけれども、札幌市教育委員会さんなどに質問等ございますか。

今は、よろしいですか。ではまた、何かお気づきあったら、お願いいたします。

では、横井構成員をお願いします。

#### 【横井構成員】

工藤校長にもう少しお伺いさせていただきます。先ほど、お話しされましたけど、札幌市のこの学校が全国的に見るとかなり体制的に充実したものを形作られ、やっぱり単独校したということが、非常によかった大きかったというふうに思います。そこは非常によく、まだいろいろ課題もあるのかもしれないけれども、引き続き充実をしていただければと思います。

それで、ちょっと一つお伺いしたいことはですね、この協議会でもこれを作るときに、ニーズがどのくらいあるか、というようなことが結構議論になって、これは全国でも同じような議論の状況にあると思うんですが、それで、星友館中学ができて、今も90名ぐらいの方が入っているわけですけども、これらの方はこの学校をどういうふうに、どこで情報を得られ、学校に辿りつかれたのかということをお聞きしたいということ。

それから、連携の市があっても、その範囲に住んでる方しか入学できませんけれども、外側にいる方々で、いろんなところからこの情報を知って、入学できないのかってという問い合わせが、少しはあるのではないかと思います。或いは、市内に住んでいてお問い合わせあったけども、入学はやっぱり諦めたとかですね、その辺の情報を少しいただければ、今後、またどこかに作るという場合にも参考になるのではないかと思います。少し教えていただければと思います。お願いいたします。

#### 【札幌市立星友館中学校 工藤オブザーバー】

まず、本校をどこで知ったかですが、とにかく、この学校ができたということ、こういう学校で学びたい方に、確実に届けたいという思いはまず持ちながら準備を進めていたところはございます。今もそういう感覚ではございます。

様々なやり方の例があったかと思えます。例えば、そのニーズ調査の段階でかなりターゲットといえますか、その対象を絞り込こんで、より本校に近い方にアンケートを行い、アンケートをすることによって、そういった方々に、こういう学校が出来るんだという事が情報として届くようにしたことが効果としてあるのかなというところが1つでございます。

勿論その中には遠友塾さんも含まれていて、遠友塾の受講生の皆さんの中でも、公立ができるんだなあっていうのは当然伝わっていくということもありますし、また国際ブラザを通じて、札幌に住んでいる外国の方に、多言語で情報が届くというようなこともありました。

ただ大きかったのはやはりですね、報道の皆様のご協力っていうのは非常に大きかったと思っております。開校式・入学式も、4月19日に大々的にやらせていただいたんですけども、そういったところで報道様のほうで取り上げていただいて、テレビとか新聞とかに出ると、それをご覧になった方が、問い合わせをいただけると、そういうことが結構効果として大きかったというふうに思っております。表現がいいかどうかかわからないですが、注目していただけるということも大事だったと思ったものですから、例えば校歌にしても校章にしても、報道様の方にも情報提供しながらずっと進めてきたところはございます。

また、札幌市以外の市町村さんにつきましては、覚書・連携を結んでいるところにつきましては、それぞれの自治体さんの方で、広報誌等々で札幌の夜間中学校に通えますよ、ということは、随分PRしていただきまして、そういう形で本校のことを知ったということがありました。

電話等をいただいて、通学に繋がる方もいれば、様々ないろんなお話しをする中で通学に繋がらない方もおりますけれども、そういうことでございます。

あと、余談になりますが、入学対象者の方だけではなく先生方も、全道の先生方の中で、星友館で働けないんだろうかというようなお問い合わせもいただきました。そういったことでいうと、北海道・東北で初めての公立夜間中学ということで、大変注目と期待の大きい学校だったんだなあというふうに認識してるところでございます。

### 3 報告 オンライン授業体験の実施について

#### 【新居構成員】

ありがとうございます。今ちょうど始まってから、1時間半の会議の30分ちょっと過ぎましたので、二つ目の方に先に進ませていただきたいと思えます。

二つ目は、昨日、遠友塾さんのお力そして星友館さんのお力を借りて、オンラインの授業を実際に試行したところであります。

これについて、まず事務局から概要の説明、そのあと、遠友塾の黒澤代表から報告をさせていただきます。事務局お願いします。

#### 【事務局：上野課長補佐】

オンライン授業体験の実施を行いましたので、ご報告いたします。

資料2をご覧ください。目的は、1のとおり、広域的な本道において、学び直しを希望する方々に対する学習機会の提供の手段の一つとして、オンライン等を活用した授業の有効性を探るため、配信授業を体験いただき、その感想や意見をもとに課題を検証することとしております。

実施日等は、2のとおりで、昨日11月14日の15時～16時まで、そのうち授業は30分程度行いました。

配信元は、3のとおり、星友館中学校にご協力をいただき、受信側は、4のとおり、かでの2・7の一室に会場を設け、札幌遠友塾 自主夜間中学の受講生9名、スタッフ6名、計15名の方に参加協力をいただきました。年代は、60歳代2名、70歳代6名、80歳代1名です。

日程、授業の内容等については、5のとおりで、開会のあと、4月に開校しました公立夜間中学星友館中学校の紹介を末原教頭からお話をいただき、そのあと、30分程度、「同時双方向型」のオンライン授業で、社会科の歴史を星友館中学校の山岸先生から札幌遠友塾のみなさんのいる会場へ配信により行いました。その後、感想発表、アンケートの協力をいただきました。

授業の様子ですが、前方には、大きなモニターを置くほか、授業を配信する星友館中学校の先生が、授業を受けている受講生、一人一人のリアクション、質問をしたときに手を挙げる動作や学習プリントに書いていて下を向いている状態など、様子を見ながら進められるよう一人一台、カメラが内蔵されたパソコンを用意して行いました。受講生はパソコンの操作は行わず、パソコンの画面には、配信される資料や先生の姿など大型モニターに映るものと同じものをパソコンの画面にも写しまし

た。席が後方だから前方のモニターが見えにくいという問題もなく行うことができました。会場の音声は、スピーカー1台を前方に置き、開始からずっとスピーカーをオンのまま、会場の部屋、どこにいても声や音を拾って、星友館中学校へ届くような状態で、授業を行いました。ハウリングが起きることもなく、行うことができました。

受講した方からの感想発表として、5の(4)に一部を掲載しましたが、「画面が暗くなったり、明るくなったり安定していなかったこと」や「マスクをしていたこともあり、声がこもって聞き取りにくかった、音が割れていた」といった声がありました。また、アンケート結果においては、一部ではありますが授業は楽しかったかの質問に、「とてもおもしろかった」が3名、「おもしろかった」が4名、パソコンを使った授業を「またやってみたい」が7名という結果でした。私からの報告は以上になります。

#### 【新居構成員】

ありがとうございます。続きまして黒澤代表からお願いできますか。

#### 【黒澤構成員】

改めまして、札幌遠友塾自主夜間中学、今年新代表になりました。以前は遠藤が10年間努めておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

座ってお話しさせていただきます。簡単に札幌遠友塾に触れ、オンライン授業の体験について述べさせていただきます。事務局の説明と重複する部分があるかと思いますが、ご了承願います。

札幌遠友塾は設立から32年目になります。現在、10代から90代までの受講生さん68名うち、韓国の方2名、フランスの方2名、アメリカの方1名おります。そして、ボランティアスタッフ78名で、毎週水曜日の夜間の2時間、国語、数学、英語、社会の授業をしております。

本来は市教委と札幌市立向陵中学校のご支援のもと、向陵中学校での授業ですが、コロナ禍のため、現在は札幌市教育文化会館で授業をしております。

さて、文科省では、令和元年からGIGAスクール構想を推進し、ICTの活用の普及を図っております。オンライン事業の実施はこれからの教育で必須のことと思います。特に、コロナ禍ではその必要性を実感しております。オンライン授業のメリットは、インターネットの環境があれば、場所を選ばず授業ができる。専門的な教育ができる。通学不要で学習者の心身の安全安心が確保できると、多くのメリットがあります。

一方、他者とのコミュニケーションが取りにくかったり、孤立しやすいとか、身体的精神的な負担がかかることもあります。しかし、改善は十分に可能だと思います。夜間中学でも、公立・自主にかかわらず、オンライン授業の必要性を実感します。北海道は広域ですので、札幌星友館中学校ができたとは言え、今後も、単独校・分校・夜間学級・通信教育という何らかの形での設置が必要です。

夜間中学では、高齢の方、心身に障害のある方や病弱な方も少なくありません。状況により通学したくてもできない場合もあります。札幌遠友塾でも、車椅子の方は、冬の積雪で通学が困難。また、バスや地下鉄の乗車が苦手で通学を途中で諦めた人もいます。

ましてコロナ禍で、休塾を余儀なくされ、学習場所を失い、居場所となっていた遠友塾を辞めたいと考える方もおりました。そんな時、機器を用意できる資金とIT技術に精通した人がいれば、オンラインで授業実施でき、交流できるのにと感じたものでした。そんな折、今回のオンライン授業試行への参加は時宜を得たものです。

60代以上の受講生さん9名、スタッフ6名で参加しました。事前に資料を提供いただき、安心して臨むことができ、よい体験をさせていただきました。参加者は事後のアンケートを提出しておりますが、帰り際に受講生さん・スタッフに簡単に聞いてみました。回収したアンケートと少しずれがあるかもしれませんがお許しください。

アンケートの質問に沿って、受講生さん9名に聞きました。設問は6問です。

「授業の内容について」選択肢が5つ、授業はとても面白かった6名、面白かった2名、普通1名、あまり面白くなかった0、面白くなかった0。

「内容はわかりましたか」よくわかった4名、大体わかった2名、普通3名、あまりわからなかった0、わからなかった0。

「オンライン事業について」パソコンの画面の見え方はどうでしたか、選択肢3。問題なく見えた7名、見えにくかった2名、とても見えにくかった0。

「先生の声は聞こえましたか」選択肢3。よく聞こえた3名、普通1名、聞き取りにくかった3名。

「パソコンを使った授業をまたやってみたいですか」選択肢4つ。またやってみたい7名、どちらでも良い0、あんまりやりたくない2名、やりたくない0。

「パソコンを使う授業は疲れましたか」選択肢3。疲れなかった7名、少し疲れた0、とても疲れた2名。

スタッフからもいろいろな意見が出されました。代表して、1名のスタッフの意見、5点を参考までに述べ、終わりにします。

- 1 授業は米騒動が当時の時代に与えた影響がよくわかりました。
- 2 双方向を生かした質問は効果的でした。
- 3 声が途切れたのはアプリの問題で、声の小さい部分は途切れる傾向があります。従って、抑揚のある声より、はっきりした声で、一定の大きさの方が良いと思います。
- 4 説明と資料が一致しないのが気になりました。
- 5 オンラインは技術的にも表現方法にも工夫する点多々あるような気がしました。そのために、授業担当者だけでなく、生徒さんが見やすく、聞きやすくするため、助言できる人材が必要かと思えます。

終わりに、今回の参加にあたり、企画を担当された方、また、授業者の方始め、ご支援いただきました皆様に感謝いたします。以上で終わります。ありがとうございます。

#### 【新居構成員】

ありがとうございました。私も昨日、参加させていただきましたが、生徒さんがすごく楽しそうにやっていて、本当にパソコンに触りながら、好意的にやられている方、中にはやはりご高齢なので、声が聞き取りにくく、マスクをなくして口元が見えたらもう少し言葉がはっきり聞きやすかったと思いますが、聞きやすさを工夫して欲しいなどの意見もあったり、これからの改善点を示していただいたところでした。

今のお話など聞いて、もう少し聞きたいことなどありましたらご発言お願いします。

#### 【木村（純）構成員】

ちょっと逸れるかもしれませんが、WEBとかオンラインを使うのは、誰も取り残さないというSDGsのテーマからそれに一番役に立つような使い方が求められると思うのですが、星友館で10月に学校評価の調査をやっていますよね。その時に、オンラインでやっておられるのですが90人のうち66人ぐらいから回答があって、30人ぐらいの方は回答していないんですよね。それは、例えばその中にはオンラインだと、なかなかうまくいかないとか、タブレット使いにくいとか、そういうこともあったんでしょうか。

#### 【札幌市立星友館中学校 工藤オブザーバー】

機器の方はですね、7月ぐらいからGIGAスクールのタブレットを少しずつ使い始めているのと、苦手な方も周りの人に聞きながらということをやっていたかと思うんですが、最近ちょっと、体調不良とかでどう休みの方がおられたりということ、90名ぐらい在籍していますが、常時、基本的に、出席してるわけでもなく、あとは期間もあまり長く取れなかったものですから、答えることができなかった方もいらっしゃるという状況です。

#### 【木村（純）構成員】

特にオンラインになかなか対応するのが難しくって回答がなかったっていうわけではないと。調査結果は、すごく皆さん、評価が高いって結果が出て、すごく努力が認められてよかったなと思いました。

#### 4 協議 本道の広域性を踏まえた夜間中学の設置の在り方も含めた教育機会の確保について

##### 【新居構成員】

ありがとうございます。この他にご意見、ご質問等はございますか。

では、この時間、協議の時間に少し回させていただいて、三つ目の協議に進ませていただきます。

先ほど議題「本道の広域性を踏まえた夜間中学等の設置のあり方も含めた教育機会の確保」ということで、お話をさせていただいたところですが、本年5月に公表されました、令和2年度国勢調査の結果を踏まえた上で、学齢期を過ぎた方で、国籍にかかわらず様々な理由により中学校を卒業できなかった方や、学習機会を求める方々のニーズに対応できる、夜間中学などの設置のあり方を含めた教育機会を確保していくためにはどのようにしたらいいのかということでご意見を伺っていきたく思っております。

まず、始めに事務局から令和2年度の国勢調査の結果の簡単な概要について資料3を使って説明させていただきます。

##### 【事務局：上野課長補佐】

資料3をご覧ください。本年5月に総務省統計局が公表しました、令和2年国勢調査の結果により作成したものです。まず、国勢調査ですが、これまでは、「最終学歴」が小学校、中学校ひとまとめになった回答項目でしたが、令和2年の調査から小学校と中学校が分けられて回答する方法に変更となり、最終学歴が小学校である方の人数が明らかになりました。

まず、資料3-1をご覧ください。義務教育未修了者数の都道府県別の状況となります。資料下の数字の一覧で、「義務教育未修了者数」という欄がございますが「最終学歴が小学校の方」の人数と「未就学者」の人数とを合わせた人数となっています。右下の総計欄が全国の数で、約90万人、北海道においては、約5万8千人で、全国で一番多い状況です。「割合」の欄ですが、15歳以上人口に占める義務教育未修了者の割合となります。北海道は、1.27%となっており、一番割合が高いところが、青森県、次いで、秋田県、岩手県、新潟県、山形県の順で、東北地域の県が上位を占めています。

次に資料3-2をご覧ください。北海道における義務教育未修了者数の年齢世代別となります。10から20代が323人、30から40代が804人、50から60代が2,137人、70代が2,795人、80歳以上が5万2千385人となっており、左の円グラフをご覧くださいとわかりやすく、80歳以上が約9割を占めている状況です。表の一番右側には、星友館中学校の11月在籍者の世代別人数をお示ししています。さきほど、工藤校長から情報提供いただいた資料に年代別人数が掲載されていますが、星友館中学校には、どの年代の人数が特別多いということがなく、在籍されている状況です。各年代の義務教育未修了者数からみると10代、20代の若い年代が在籍している割合が高いという状況です。

次に、資料の3-3をご覧ください。道内の義務教育未修了者の状況となります。左側から、人数が多い順で、札幌市に続き、旭川市、函館市、苫小牧市、小樽市、釧路市、北見市となっています。参考でお示ししましたが、四角の実線で囲んでいる市は、「さっぽろ連携中枢都市圏」の市で、入学に関する覚書を交わしており、点線の苫小牧市は、個別に札幌市と入学に関する覚書を交わしております。星のマークは、自主夜間中学など私設の夜間中学がある市です。札幌市以外の義務教育未修了者数の多い上位については、自主夜間中学などの民間の夜間中学で学び直しの機会を提供する施設がある。または、札幌市と入学に関する覚書を交わしている状況にあります。説明は、以上です。

##### 【新居構成員】

今、説明があったんですけども、例えば今年5月に開校された北見市の自主夜間中学。北見も7番目に多いような状況の中で出来てきて、生徒の皆さんが学ぶ機会が保証されてきてるんだなと思ったところです。まず資料3の1枚目2枚目3枚目を見て、この後、皆さんからご意見やご質問、そし

て、最終的には今日の協議の柱であります、「本道の広域性を踏まえた夜間中学の設置のあり方も含めた教育機会の確保」について、先ほど一番はじめに木村教授からも、5日間毎日働きながら通うことは難しいけれど、どのような工夫があるのかという話があったり、冬だとなかなか車椅子の方が通えなかったり、北海道の広域性だったり、冬の辛さがある中で、どのような工夫があって、北海道の皆さんに学ぶ機会を提供できるか、様々なご意見等をお聞きして、充実につなげていきたいと思っております。口火を切っていただける方いらっしゃらないでしょうか。

では、工藤代表お願いいたします。

#### 【工藤構成員】

実は基礎教育保障学会で、現在、国勢調査の分析に関するプロジェクトチームを立ち上げて、作業を進めております。全国のデータから、まず県単位で見ると義務教育修了者数は北海道が一番多い、どこどこが少ないとか、これは分かるのですが、もう一つは、15歳以上の対人口比率で、県単位と市町村単位でどれぐらいのパーセンテージになるのか、これが実は結構ハードルが高くて、現在47都道府県で全部作業を終えているのが北海道を含めて、約半分ぐらいです。まだまだ更地のようになって隠れているところがある。例えば私が一番知りたいのは、市町村別に義務教育未修了率が一番高い市町村、これがおそらく全国のワースト20を並べると、ある一つの傾向が出てくると思います。それを徹底して調べて改善を図るということが必要になってくる。もちろん人数の大小もあります。それを、例えば北海道の振興局別で考えてみると、石狩管内と上川管内だけで約4割ほどの人数になります。それから割合順で行くと、檜山管内と日高管内が未修了率が非常に高い振興局になります。全国では未修了率が高い県が、北海道、北東北、沖縄・南部九州であり、日本の端に集中しているのです。

1週間前に私たちは盛岡市で初めて、夜間中学の映画「こんばんはⅡ」の上映会と、交流会があり、それに参加してきたのですが、そういう地域であればあるほど、「今更」とか「かつこ悪い」とか差別的なことを前もって身構えて表面化しないっていう傾向が非常に強いと感じました。それが今では、様々な福祉関係のボランティア団体がたくさんあって、社会福祉協議会とも連携する中で、どうも教育というのが、今まで欠けていたということに気がつきはじめていて、それで、もしこれが自主夜間中学に発展し公立夜間中学になると、おそらく非常に福祉的な発想の素晴らしい夜間中学ができるっていう可能性もあるなというふうに感じました。

あと、いろいろ調べていった中で、例えば、北海道の中で、市町村で一番この義務教育未修了率が高いのがある町なのですが、そのある町の中のたくさんの細かい住所分布がありますよね、何々町だとか、何条何丁目とか、その中のやはり8割ぐらいは特定の地域が占めている。これは様々な他の市町村でも見られる傾向ですけれど、これを調べることによって、何によってそういう結果が生まれるのかということ調べる手だてができたと思います。しかもこれを学歴欄だけから判断していますから、形式卒業等々の問題で、若い人がどんどん、或いは外国から来た人がどんどん増える傾向の中で、夜間中学の果たす役割っていうのは、どれだけ大きいのか。むしろ基礎教育保障学会では、何が問題になってるかということ、今後、形式卒業者の実態が数字で明らかにできないか、外国から日本に来る、或いは戻ってきた人で学びたい人も数値化できないかっていうところまで議論になってきています。調べないと分からないことが余りにも多すぎる。少なくとも北海道の各市町村、今回参加しておられる教育委員会の方たちは、ぜひ目を皿のようにしてのようにしてそれを調べていただきたいと思っています。

#### 【新居構成員】

ありがとうございます。今、工藤代表からから細かな状況をちゃんと分析して、北海道に住む方々の対応を考えていこうというお話いただいたのですが、横井先生お願いします。

#### 【横井構成員】

今のお話しに関連しまして今日のデータについて、もう少し教えていただきたいところもあるんですけども、札幌市が非常に数としては多いということが分かったんですけども、この年齢のクロ

ス。こういった年齢の人が多いいということをお聞きしたい。今分からなくてもなくてもいいんですけども、このあとまた調べていただければいいんですけども、義務教育未修了者の場合には調べていただく必要があると思います。資料の3-2では80歳以上の方が9割なわけですね。それはほとんどどこもそういう感じなのか、札幌市はもしかすると大都市ですから状況が違ふかもしれませんし、その辺を教えていただければということが一つ。

それから、資料の3-2で、星友館等を並べておられるわけですが、星友館の場合には、既卒の方がほとんどだから、義務教育未修了者ではないんじゃないかと思うんです。だから並べてる意味があんまりはっきりしない感じがあります。それで、やっぱり今工藤代表がおっしゃいましたけれども、一つは高齢者の義務教育未修了者です。この人たちをどうするというのと、もう一つはそこに今回の国勢調査で出てこない形式卒業者が非常に多いとも思われますので、そういう人達にこの夜間中学の学びの機会をどう届けるか、そういう視点を同時に持って普及させていくことがやはり重要であるというふうに思います。質問と意見です。

**【新居構成員】**

年齢のクロスは今ありませんが、三つ目にお話がありました札幌市立星友館中学校と並べた資料を出した意図は、横井先生おっしゃったように実際に未修了者の方もたくさんいるけれどそれ以外にも、形式卒業の方がいらっちゃって、そういう方が多く学んでいるというのをお見せしたいと思って作ったものです。札幌市教育委員会さん今の数値のクロスについて何かお持ちですか。

**【石田構成員】**

ありません。

**【新居構成員】**

次回までに、今、工藤代表と横井先生からいただいたお話を聞きながら、情報を新しく提供できるものを整理していきたいと思います。ありがとうございます。

**【工藤構成員】**

札幌市の場合は若い方のウエイトが高いです。北海道の地方は年齢の高い方のウエイトが高いです。これは2010年ぐらいからの傾向です。それからもう一つは、どんどん人口が減って行って亡くなる方以外で、札幌市の人口集中は今まで続いていましたから、それで札幌市の絶対数が増えるっていうのはそこなんです。そういうのははっきりしています。

**【黒澤構成員】**

札幌遠友塾の場合ですけれども、最近、希望する方から電話とかいただきますけれども、やはり、一つは形式卒業者が多い。それから不登校の方、実際に今、不登校のお子さんが一名入ってきております。もう一つ、ここ数年多いのが、特別支援学校や高等養護とか、それから、いわゆる普通の学校の特別支援学級を卒業した後に、一旦社会に出て揉まれて、そこで、生きづらさでもないですが、「もう1回学びたい」、そういう方々が、ちょっと増えている傾向にあると思っております。それから、星友館中学校さんとは有難いことに、こちらからも行きましたけれども、逆に5日間通えないという方もおり星友館中学校の教頭先生からお電話をいただいております。お互いやりとりをして、私の方で、星友館中学校を紹介する場合があります。ありがたいことだと思っています。同時に、星友館中学校ができたので、この4月に、札幌遠友塾に入ってくる方は減ると思ったんです。減るところか、きっと相乗効果があり、今年的一年生は増えております。ですからもっともっと広く行き渡っていくと増えるかなと思います。以上です。

**【新居構成員】**

ちょっと話を広くお聞きします。十分学べないまま形式卒業してしまった方の中には、その後自分で勉強していくことが難しい方もいると思うのですが、今日はフリースクールの方や、中学校校長先生の管理職の方もいるので、そういう場合どのような配慮とか、どんな工夫が必要かと、また、実際取り組まれたことがあったら、教えていただきたいと思います。服部様からお願いしてもよろしいですか。

**【服部構成員】**

はい。よろしくお願いいたします。本財団は、フリースクールを運営しているんですけども、やはり先ほどもあったように、不登校の経験をしている生徒というのが、多く在籍しているという現状があります。その中で、学びというところを見たときに、今、学習アプリコンテンツというものが、多種多様なものがあると思うんですけども、それを活用して、小学校とか中学校の初等教育の学び直しをしていくというような活用はさせていただいております。

やはり学力差が非常に大きいというもありますので、一斉授業のスタイルがなかなか、難しいというのは、現状でもありますので、そういう形では、本校の方では対応しているというところですよ。

**【新居構成員】**

ありがとうございます。続いて中学校長会から村上校長先生に出席いただいているんですけども、少し幅広くなっても結構ですので、校長先生一言お話しいただいてもいいでしょうか。

**【村上構成員】**

村上です。よろしくお願いいたします。すごく勉強になりました。今お話あった中で、私、聞こうかなと思ってた質問が一つ出たんで、というのは今、中学校では個別最適な学びということで、いろんな子供たちにいろんな学び方を進めようというふうになってるんですが、この夜間中学では、それこそ、それ以上にいろんな方が、一つの教室にいると思うんですが、どのような形でやっていくのかっていうことを知りたいなと思いました。

あと、もう1点別な質問ですけどよろしいでしょうか。資料3-3にある。道内の状況なんですけど、ここにある市町村だけということ、ここにはない市町村は0という押さえよろしいでしょうか。道東の方とか、私の実家のそばの道北の市町村が資料にないなと思ってどうだったのかというのは、単純な質問ですけど。すみません、よろしくお願いいたします。

**【新居構成員】**

まず、二つ目の質問なんですけども、実はこのままずっと179の市町村まであるんですけども、私の方で名寄市さんで切らせていただきました。ずっと続いているものでございます。申し訳ございません言葉が不足しておりました。では、村上校長先生からいただいた個別最適な学びに向けて、星友館中学校さんでは6コースを作っているというようなお話しですがそれをさらにちょっと詳しくお話しいただけますか。

**【札幌市立星友館中学校 工藤オブザーバー】**

はい。本来では3学級なんですけど6コース展開して少人数の指導をしています。なるべく生徒さんの学びの状況に応じた内容で学べるようにということで6コース展開しております。その6コースの中でも教科にもよりますが得意な教科、不得意な教科とかいろいろ生徒さんの違いはございます。それはボランティアさんの支援等でやったりもするんですけども、それでも差は当然あって、そうなった時に全員最低限ここまでは頑張らましようって、さらにもっとできる方は例えば、算数・数学で言えば、さらにチャレンジ問題みたいなものを用意したりとかありますし、また、本校もギガスクールのタブレットを入れておまして、アプリでドリル的なものを自分で授業で余った時間とか休み時間とか、学校が始まる前に少し早く来たりとか、アプリで自分で勉強できるようになっているので、そういった意味で何とか今のところは「個別最適な学び」に対応してるところではございます。

**【新居構成員】**

村上校長先生いかがでしょうか。

**【村上構成員】**

どうもありがとうございました。

**【新居構成員】**

では、続いて、高校の校長先生、石狩南高校の原田校長先生から一言いただいてもよろしいですか。

**【原田構成員】**

関係の方々大変お疲れ様です。私からは、今までの内容を聞いておまして、質問だけじゃなくて感想ということも多くなると思いますが、よろしくお願ひします。

星友館中学校さんの現状等については詳しく説明をいただきました。私の感想としましては、生徒さんが、10代の若い年代から、親またはおじいさんおばあさんの年代の方まで、同じ学年や同じクラスに所属していても、年齢がこれだけ違う生徒同士で学んでいるということ、あと生徒同士の横の繋がりというの、夜間中学校さんならではのものがあるんだろうなというふうに感じました。

今年度開校した、星友館中学校さんですが、多分その教育活動のいろんな場面でも試行錯誤というのがあるんだろうなと推察いたします。定着に向けて試行錯誤が繰り返されてるんだろうなというふうに思っています。ぜひ、それが定着し、教育が充実されて、入学希望者が幅広い年代からもどんどん増えていくということ、ご期待しております。

そこで、ぜひ、星友館中学校さんが全道の先駆けとなり、北海道は広域ですので、全体の市町村に義務教育の未修了者が少なからずおりますので、私は、道立高校の教員なものですから、道立高校のことを申しますと、札幌市内には有朋高校があります。全道各地の高校とつないで、配信センターの拠点になっています。全道各地には、配信を受ける高等学校が点在しています。それをちょっと私、イメージしているものですから、ぜひ、夜間中学校であっても、市町村教委との深い連携ということもあるんでしょうけども、それぞれの地域に星友館中学校さんを拠点として、各市にも夜間中学校。そして、夜間中学校がない市町村であっても、連携した形で配信を受ける等々の構想を近い将来実現していったら、すばらしいなというふうに思っています。

私は道立高校の教員ですので、生徒の年代も同じ年齢一つ二つ年齢が違うだけの生徒を相手にしておりますが、これだけ幅の広いそれぞれの事情を抱えておられる、そして様々な理由で、学びたいのに学べなかった事情をお持ちの生徒さん。その方々に対して学ぶ機会を持っていくということ。本当にすばらしい取り組みだなと思っておりますので、ぜひ充実化が着実に進んでいくことを期待しております。以上です。

#### 【新居構成員】

ありがとうございます。残り15分ぐらいになってきておりますので、先に今日出席いただいている。4つの市の教育委員会の方から感想でも結構ですし、今の取組などがありましたらそちらでも結構ですので、せっかくの機会ですので一言ずついただきたいなと思います。順番は名簿にありますように、函館市、旭川市、釧路市そしてオブサーバーの北見市さんでお願いしたいなと思います。では、函館市、木村課長お願いいたします。

#### 【函館市教育委員会 木村構成員】

今日はありがとうございます。札幌市に星友館中学校さんができたことが大変大きなことで報道等でもいろいろな場面で取り上げられておりますので、大変注目しております。函館市といたしましてはやはり子供たちも含め、様々な年代の学習機会の確保については大変重要なことだと考えております。先ほど、夜間中学の方に不登校の生徒さんって話がありましたが、不登校の児童生徒についても、函館市でも計画を作成し、各学校において、サポートルーム等の対応であったり、またそれ以外に居場所づくりということで、適応指導教室、また、家庭の方についても、学習が受けられるようにICTの活用等も進めているところです。

その他、生涯学習の場としまして、様々なことを学びたい方に対して「まなびっと広場」のような講座を開講したり、また高齢者の方を対象にした高齢者大学、日本語を学びたいという外国籍の方を対象とした日本語教室を行っているところです。

また、函館市には自主夜間中学の函館遠友塾さんもありますので、そちらの方とも連携をしながら、取り組んでいるところになります。国勢調査等でも様々なデータが出てきております。先ほど「分析が必要だ」というようなお話もありました。今後どのようなことができるのかということについても、先行事例である札幌市さんの状況を見ながら検討していきたいと考えております。以上でございます。

**【新居構成員】**

ありがとうございました。続きまして、旭川市、工藤主幹お願いいたします。

**【旭川市教育委員会 工藤構成員】**

はい。本日はどうもありがとうございます。この公立夜間中学の設置は本市の課題の一つとも考えてございます。今後、星友館中学校における実践ですとか、先進地の様々な事例を学んでいきたいなと考えております。このような場を通じて様々な情報を得たいと思っておりますので、引き続きご教授をお願いいたします。

北海道の広域性といった特性は、上川管内も同じです。先ほどオンライン授業の話が出ましたけれども、夜間中学の取組に限らず、非常に有効であることは間違いないと考えています。受信側の教員免許の有無ですとか、対面による授業時数であったり、様々クリアしなければいけない要件というのは幾つもあるとは思いますが、こうしたオンライン授業の実践が積み重ねられて、課題も次第に解決に向かっていくのかなというふうに期待をしているところです。

本市に関わってですけれども、上川中部定住自立圏共生ビジョンの協定に基づいて、周辺8町と適応指導教室を運営して不登校の児童生徒の受け入れを行っております。その中においても、まだ夜間中学に係る議論には至っていないという現状がございます。本市では、一定程度ニーズはあるのかなというふうに認識はしているところです。

またお住まいなってる外国人の方もですね、日本語に困り感を持っている方もいるのではというふうに考えています。こういったことを踏まえたと、広域性といった状況もあるんですけれども、様々な方法を模索していく必要性は感じているところです。そういった意味で札幌市さんの星友館中学校の取組をはじめ、他都市の動向ですとか、北海道教育委員会の施策の推進を注視して参りたいと考えておりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

**【新居構成員】**

ありがとうございます。続きまして釧路市、早坂次長様お願いいたします。

**【釧路市教育委員会 早坂構成員】**

はい。今日は、様々な情報をいただきましてありがとうございます。私どもとしましては、学び直しの場のあり方という大きな観点から考えた場合、その対象となる人は、先ほど国勢調査の結果にもありました、多くの未就学の高齢者、また、近年では形式卒業者と呼ばれる子供たち、本市では少ないんですが、外国人労働者もまた対象の一つとして考えられる中で、近年はICTの進展ということも踏まえまして、これは、無視できない要因だろうと考えてます。そのような様々なものを組み合わせながら、多くの人の学び直しの場はどうあるべきかということ。また、様々な先行事例を参考にしながら、当市における、形を模索していきたいと考えてございます。本日はいろいろとありがとうございました。

**【新居構成員】**

ありがとうございます。続きまして、北見市、喜多主幹様、お願いいたします。

**【北見市教育委員会 喜多オブザーバー】**

改めまして、北見市教育委員会指導室の喜多と申します。今回初めてこの協議会に参加させていただきます。ありがとうございます。

本市では、公立学校を退職した教員が、今年の5月に民間の夜間中学を立ち上げました。現在は週1回、金曜日の夕方2時間を使ってですね、退職した教員10名ほどがスタッフとして常駐して不登校の生徒、それから学び直しのシニア、そして、先月ですね、ネパールから親子が来て日本語指導の習得を目指すということで、様々な困り感があったり、学び直しをしたいというそういった生徒が集まってきて、どんどんと人が増えてきている状況です。ただ民間ということですので、私たちができることは少し限られていて、市からの補助金ですとか、社会福祉協議会がバックアップして会場をお貸ししたですね、そういった形で、現在サポートさせていただいております。半年経ちましたけれども、成果としてはやはりオホーツクの中核都市である北見に、民間ではありますが、こういった夜間中学

ができたということは、本当に喜ばしいことだなと思います。

今後は周辺の町村とも連携をとりたいと代表の方も仰っていましたので、何かしらサポートを私達もしていきたいと思います。課題としては、民間のこの夜間中学校と我々市教委、それから不登校生徒を抱える中学校がどう連携を図り、生徒の情報をきめ細やかに提供し、困り感を少しでも解消するといったことが大事だと思いますので、市教委が今、間に入ってそういったサポートさせていただいております。今回、様々な実践事例をお聞きしましたので、また民間中学の方に反映させてですね。北見市としても、困り感のあるそういった子供たちに対応していきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

**【新居構成委員】**

ありがとうございます。せっかくの機会ですので総合教育推進課の笠井課長様に全体を通してお話いただけますか。

**【笠井構成員】**

道庁の総務部教育・法人局で総合教育推進課長をしております笠井と申します。よろしく申し上げます。道教委さんとは別に、知事部局の立場で教育行政に携わらせていただいております。

知事が策定をしております北海道総合教育大綱というものがあるのですが、そういったものの中で、「誰もが生まれ育った環境に左右されず、生涯にわたって学び続けることができる環境」というのが基本的な理念としてありますので、ぜひこの夜間中学、札幌の星友館中学が先駆けとなって、全道に広がっていけばいいなと思っておりますが、それにはなかなかいろいろな面でハードルが高いのだろーと思っていて、今回、オンライン授業体験をされて、いろいろ課題も見えてきたところだと思います。そういうところを一つ一つ、課題を克服して、先ほどのご提案もあった有朋高校の授業配信みたいなどころまでいければ素晴らしいと思います。一歩前に進める取組が今回されたのかなと受け止めております。

それから、もし、分かったらですけども、先ほどの資料3-3で、義務教育未修了者の状況で、多い方から順番に、北見市さんまで。北見市は今回、新たに自主夜間中学ができたということですけども、その後の、例えば帯広市さんですとか室蘭市さんとかで何かそういう動きみたいなものがあるのか、情報があれば教えていただきたい。

**【新居構成員】**

今、工藤代表に聞きましたところ「ない」ということで、これからまた検討されていくものかと思っております。

**【工藤構成員】**

全道179市町村あって、一つの市に一つ夜間中学があったからって、間に合わない場合もある。冬場のツルツル路面の時には通えないという問題もある。私たちが望んでいるのは、自主夜間中学も含めた夜間中学のネットワークを張れないかということ。それと今、今回テストで行われたオンライン授業、これが非常に大切です。ただし夜間中学の場合には、必ずそれを受ける側の個人フォローが絶対必要です。これは、授業は、対面授業じゃないと無理だっていう感覚があるものですから、そういう意味で言っております。

それから、各市町村教育委員会の方に特に言いたいのですが、自分の市町村はまず何ができるか、その時に、公立夜間中学の設置っていうのはものすごく大きな核になる。これをまず目指すか目指さないかというところまで、考えながらやられたらいいと僕は思っています。札幌市とは長年そのことでずっと長い間討論を続けてきました。年数はかかりますけどそれが大事だと。

一つだけ言いたいのですが、夜間中学がなぜ有効かということですが、いろんな様々な人がいて、年齢層も違う国籍も違う、若い人でもいろんな、例えば心の病も抱えた人もいれば、他のことで悩んでいる方もいる、こういう多様な人たちが一緒にいる世界が夜間中学。そこで行う授業っていうのが、とっても大切なんです。これは、常に多様性を前提にした上で授業するわけですから、これがとってもいいんです。

ですが、今、公立の小中学校は特に同一年齢同一地域です。今はちょっとそれだけでは無理だと僕は思います。ですから夜間中学が必要だと。そこに来る大人の人たち、様々な問題を抱えた人達が集まって醸し出す雰囲気はとってもやさしいんです。ですから、若い人でも生き返るっていうのはそこなんです。遠友塾に若い人たちが来て、元気になって学校に戻っていったり、或いは定時制に入って生徒会長をやったり、そういうことが現実に出てくるわけですね。それは多様性の中で初めて自分の居場所を見つけるからです。今それを星友館さんも、それを率先してやってくださっていて、非常にこの授業の仕方、内容についても、苦勞されていると思います。

いい言葉があります。そちらにおられる道新の岩崎さんが3回連載の記事が11月1日、2日、3日に出ているんですが、その中で、「色も成り立ちも異なる『星(生徒)』が互いを尊重し助け合う『友』として『館』で集い学ぶ」いわゆる星友館ですね。「生徒たちが校名を体現し始めた」と書かれている、ここなんです。これは友として助け合うということを考えてみてください。いじめなんかありっこない世界、多様な人たちがいる、多様な人たちがいるからこそ、みんなが優しくなり、みんなが生き返る、これが夜間中学だというふうに思ってください。それから次に、末原教頭がこういうふうに言っています。「いずれはここで得た知見、様々な試行錯誤を、授業をするに当たってしますが、これは、いずれ札幌市の学校教育全体に広げて欲しい」これは実は教育を変える一つの提案なんだったということを、末原さんは言っていますし、最後に、工藤校長が「将来的に星友館中学が道内夜間中学のセンター校としての役割も担えればいい」という希望を残しておられる。これはまさしく、私たちが15年前に、北海道に夜間中学をつくる会を立ち上げたときに、第一項目に、これと同じ文言を掲げました。そうしないと、広域の北海道には太刀打ちできないはずだと思っていたからです。いずれにしても絶対にとどまることなく、必ず前進を図っていただきたいというふうに思います。よろしくをお願いします。

#### 【新居構成委員】

ありがとうございます。お時間を迎えているところですけど、最後に一言などある方いらっしゃいますか。皆さんからいろいろな熱い思や今までの経験や知識に基づくお話ありがとうございました。本日の会議はワーキンググループということで、今までの取組の共有を行わせていただきました。このあと年が明けますと、協議会としての開催になります。同じメンバーで出席される方もいらっしゃると思いますし、また部署によっては、道教委も、次回は私ではなく局長が進行するなど、協議会としての立場を少し考えての取組であります。もし出席される方が変わる場合は、本日どういう協議がされて、次回まで自分としてはこういう考えを持って何か取組をしたとか、思いを持って出席していただければ、さらに協議会が充実すると思っているところでございます。いずれにしましてもみなさまから北海道に住む方々の少しでも学ぶ機会が充実するようにですとか、その中で先ほど遠友塾さんは「5日間通うことがつらい子はうちに来て」、そして星友館さんは「5日間来られる子はうちに来て」と連携をしながら、その人の学ぶ姿勢に一番合った方法を選びながらやってきたから人が増えてきたっていう話があって私すごく感動しました。そういう学びが少しでも充実するようにということで、T-bassを実施している有朋高校の取組なども参考にしながら、検討を重ねていきたいと思っておりますし、どうか皆様もこの後、お力添えをいただきたいと思っております。今日は貴重な時間をありがとうございました。以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。